

平成 29 年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒が自ら課題を発見し解決する力を育み、主体的に学ぶ意欲を高めることを目指した不断の授業改善の実施等、これからの時代に求められる資質・能力の育成に向けた教育活動の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業と定期テストの効果的な連動。 ○ALの視点を意識した授業実践に向けた職員研修の充実。 ○理数教育推進校としての取り組みの一環として、1年総合的な学習時間において課題解決学習を実践。 ○KSC(スタートキャンプ)の内容の見直しと改善。 ○アランデル高校交流事業の推進。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時間の最大限の確保と適切な学習評価のための定期テストの実施。 ○ALの視点を意識した授業実践の推進を図るため、公開研究授業・研究協議会及び授業づくり研修のテーマに位置づけ研修を実践。 ○総合的な学習の時間における課題解決学習のためのカリキュラムを実践。 ○科学オリンピック等外部での発表機会への参加。 ○生徒が本校の生徒として主体的に考え責任をもって行動するためのカリキュラム作成とその実践。 ○アランデル高校訪問カリキュラムの充実はもとより、来校のための受け入れ体制の整備。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業時間を1単位当たり35時間確保できたか。定期テストを過不足なく実施できたか。 ○教員のALへの理解が深まり実践への意識が高まったか。(職員アンケート) ○生徒による授業評価項目4の回答1・2が10%以下になったか。 ○研究成果中間発表会における研究成果の内容と次年度に向けた計画準備ができているか。 ○各種発表機会への参加者数が増加したか。 ○KSCのカリキュラムにより、生徒が主体的に考え責任をもって行動ができるようになったか。(生徒アンケート) ○アランデル高校来校の体制が整えられ、実践できたか。 					
2 (幼児・児童・)生徒指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○「礼節・信義・根性」という校訓、「文武両道・切磋琢磨」というモットー、県相8Cを基盤とするバランスのとれた教育活動の展開による、豊かな人間性や社会性の涵養、社会とのつながりを意識し責任を持って関わろうとする人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○豊かな人間性や社会性を育てるため、行事や委員会活動等に生徒自身が主体的に関わるように指導を工夫する。 ○教育相談体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○企画や運営を工夫し、球技大会、体育祭、文化祭等の行事や委員会活動等に生徒一人ひとりが主体的に関わるための指導。 ○学年や関係グループとの密接な関係 ○スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)の積極的活用 	<ul style="list-style-type: none"> ○反省を生かし、企画や運営の工夫をしたか。主体的に関わることができたか。(事後アンケート) ○学年の教育相談担当と教育相談CO、SCとの連携が図られたか。 ○ケース会議を設定し、的確にSCやSSW、外部機関につなぐことができ 					

			<ul style="list-style-type: none"> ○責任を持って他者と関わる態度を育てるため、人権の日指導にボランティア活動に関連した情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活Gと生徒会Gが連携し、人権の日の指導で活用する啓発資料としてボランティア活動に関連した調査や募集、活動報告等の情報提供。 	<ul style="list-style-type: none"> たか。（ケース会議の開催回数） ○人権の日指導においてボランティア活動に関連した情報提供を行った回数。ボランティア活動に参加した生徒の人数。 					
3	進路指導・支援	<ul style="list-style-type: none"> ○大学卒業後の進路（生活設計）をも視野に入れた進路設計を行い、課題を整理・解決し、実現に向けて継続的、計画的に努力する力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○自らの目標に向けて最後まで粘り強く努力を続ける態度を育成する。国公立大学受験者数を増やす。 ○高大連携講座の進化・充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路説明会、総合的な学習の時間、LHR、個別面談等様々な機会を捉えた生徒・保護者への受験の働きかけ。 ○計画的な模擬試験の実施と結果分析。 ○現在の連携大学との連携の強化とプログラムの充実及び新規連携大学の開拓。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国公立大学を受験する生徒が増えたか。 ○模擬試験等の受験状況と成果の分析結果。 ○講座数が前年度より増加しプログラムの充実が図られたか。新規連携先を開拓できたか。 					
4	地域等との協働	<ul style="list-style-type: none"> ○地域から期待され信頼される進学校としての、地域のニーズに応える連携した教育活動の推進による、地域社会に責任を持って進んで関わろうとする人間の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○地域社会と積極的に関わろうとする態度を養うため、部活動や委員会活動、行事の取り組みの情報共有を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○積極的に地域社会と関わろうとする態度を養うため、部活動や委員会、行事等のボランティア活動に関する情報を学校全体だけでなく、保護者や地域で共有できるような工夫。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア活動に関する情報を学校全体で共有できたか。ホームページ等を活用した情報発信ができたか。 					
5	学校管理 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の多様な自主的活動を支える仕組みや、生徒の意見を生かした安全で安心な学習環境の整備 ○事故の未然防止と地域に開かれ、地域と共にある学校づくり推進に資する効果的な広報活動の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ○「県相を考える委員会」の効果的な運営を図るとともに、生徒が自ら学ぶための環境整備及びAL実践のための環境整備を図る。 ○有益な外部情報の適切な提供 ○防災教育の意義の確認 ○学校説明会等による効果的な広報活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○「県相を考える委員会」から学校生活におけるさまざまな意見を吸い上げ、学校運営に生かす。また、自習室や攻め机がより利用しやすくなるよう整備するとともに、AL実践のための情報収集や教育ツールの充実。 ○奨学金、留学、公募コンテスト等の情報を生徒への適時の提供。 ○防災教育の必要性の確認と生徒の積極的な参加の促進。 ○本校の実態と実像を理解してもらえよう学校説明会等の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「県相を考える委員会」からの意見発信の回数。 ○自習室の整備の進捗状況と教員向けの教育ツールの整備状況。 ○適切な時期に適切な情報が提供されたか。その回数。 ○防災教育の必要性を防災訓練等の都度説明し、生徒の体験型訓練を増やしたか。 ○学校説明会等への参加者数とアンケートにおける評価を得られたか。 					